

最終報告

新潟県大学生の力を活かした集落活性化事業

佐渡市羽茂大崎集落

2018.03.22
駒澤大学 姉齒ゼミナール

最終報告の流れ



I. 活動概要



II. 活動内容と成果



III. 活動を通して見えた学生の有効性と限界



IV. 活動を通して見えた事業の有効性と課題

I .活動概要

3

I . 活動概要

1. 羽茂大崎とはどのような所か

数字から見る羽茂大崎

- 高齢化率: **54.4%** (全国: 26.0% 佐渡全体: 38.8%)
- 世帯数: 83世帯、**人口約215人** (佐渡人口の約0.4%)
- 農業: **農業が主体**の農村集落。なかでも、**米が全体の70~80%**
- 交通: バスは**1日3便**のみ、移動は**自家用車中心**

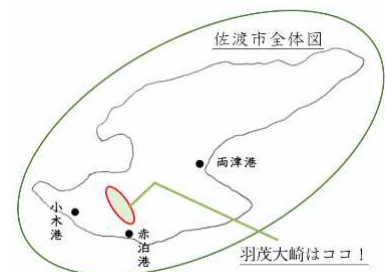
集落の特徴

- 「大崎の自然」の魅力

緑豊かな自然が羽茂大崎では多く残り、**壮麗な景観**を有す

- 豊富な歴史や文化

伝説の残る土地が**手つかず**で存在しており、**観光スポット**になりうる

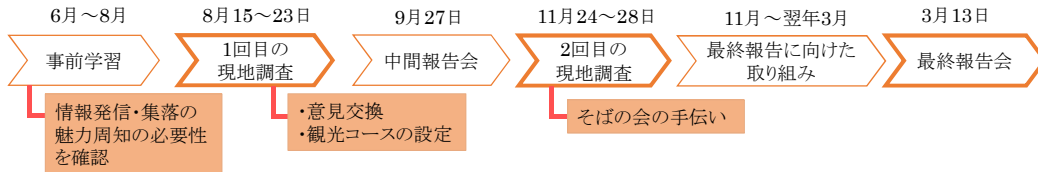


4

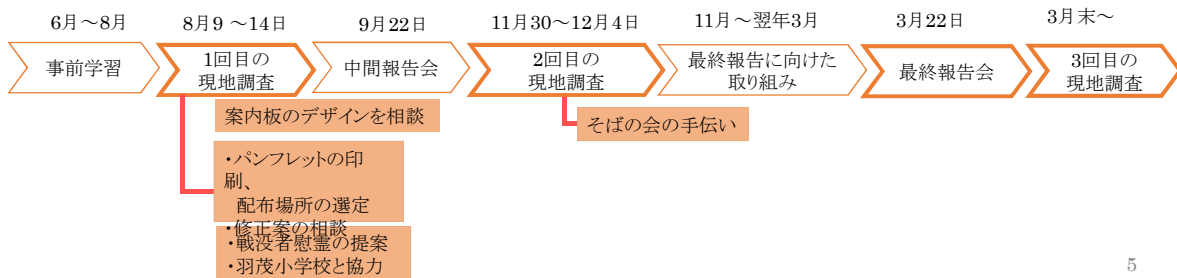
I. 活動概要

2. プロジェクトへの取り組み—その過程

2016年度



2017年度



5

I. 活動概要

3. 私たちの考える集落活性化～『限界集落』論に依拠しないことの重要性～

『限界集落』論とは

- ・人口減少率や高齢者比率(65歳以上)の割合が高い
- ・上記より集落機能の低下、生活の維持が困難な状態
共同作業の担い手不足 高齢者が一人で生活

そうだろうか？

年齢で「活動域」「生活機能の維持可能性」を決めつけない
『限界集落』論にとられないことが重要であることを認識。

I. 活動概要

3. 私たちの考える集落活性化～『限界集落』論に依拠しないことの重要性～

『限界集落』論に依拠しない理由

- ① 共同作業 (ex: そばの会) や住民同士の繋がりがあ
- ② 集落アンケートの実施により見えてきたもの

結果

(1) 集落外に担い手となりうる後継者が存在した！

帰郷したい人が多数

(2) 帰郷の障壁が明確になった！

交通インフラ等の未整備が原因

(3) 住民が抱える不便さが帰郷の障壁と同じ！

I. 活動概要

4. 提案の軸と3つのコンセプト

全体を貫く軸

住民の暮らしやすさを第一に据える

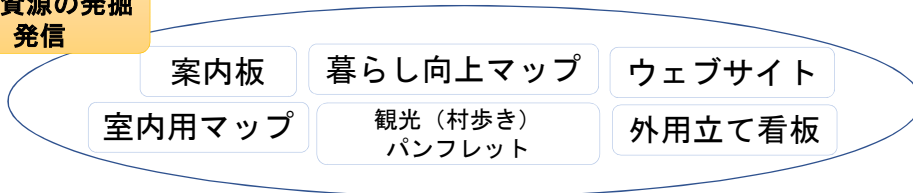
3つのコンセプト

- ① 住民との **意思疎通**
- ② **地域資源** の活用
- ③ 実施までの困難さ、資金面、必要な時間・担い手を示す

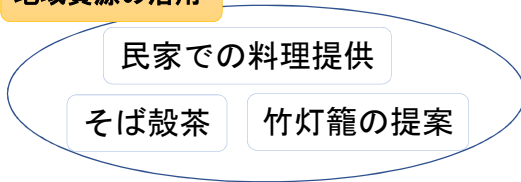
I. 活動概要

5. これまでの提案内容

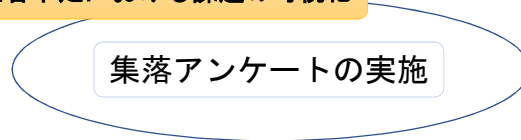
地域資源の発掘 発信



地域資源の活用



後継者不足における課題の可視化



9

II. 活動内容と成果

10

Ⅱ.活動内容と成果

地域資源の発掘 発信

①観光（村歩き）
パンフレット

②案内板

地域資源の活用

①竹灯籠の実施

②そば殻茶

後継者不足における課題の可視化

①集落アンケートの実施

11

Ⅱ.活動内容と成果

1.地域資源の発掘、発信

地域資源の 発掘、発信

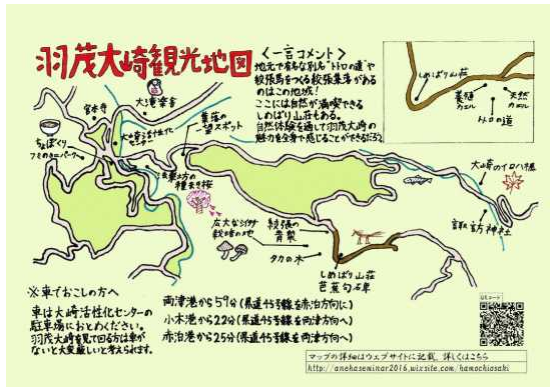
①観光（村歩き）
パンフレット

②案内板

12

Ⅱ.活動内容と成果

1.地域資源の発掘、発信 ～①観光地図の改善及び設置～



・掲載情報の修正
・毎日の散歩にも活用

13

Ⅱ.活動内容と成果

1.地域資源の発掘、発信 ～②案内板の作成、設置～

実際の活動の様子 ～案内板の制作～



14

Ⅱ.活動内容と成果

1.地域資源の発掘、発信 ～②案内板の作成、設置～

実際の活動の様子 ～案内板設置～



「見栄えが良くなった」、「名所の名前がはっきり分かるようになった」という声



パンフレットに記載した名所が住民に認識されるようになり、集落の魅力の再確認に繋がる

15

Ⅱ.活動内容と成果

2.地域資源の活用

地域資源の活用

①竹灯籠の実施

②そば殻茶

16

Ⅱ.活動内容と成果

2.地域資源の活用 ～①竹灯籠の実施～

実際の活動の様子 ～制作～

もっとたくさん
作ろう



戦没者慰霊
の歴史を復
活して!



17

Ⅱ.活動内容と成果

2.地域資源の活用 ～①竹灯籠の実施～

実際の活動の様子 ～設置～



18

Ⅱ.活動内容と成果

2.地域資源の活用 ～①竹灯籠の実施～

実際の活動の様子 ～点灯～



- ・今後もやっていきたいという声
- ・小学生が描いた絵を見に多数来場



- ・単発でなく継続性のある事業へ
- ・地域内の世代間交流を促進

19

Ⅱ.活動内容と成果

2.地域資源の活用 ～②そば殻茶～

～そば殻を炒っている様子～



～そば殻茶～



- ・2016年度は苦みやざらざら感があり、改善の余地があった
- ・そばの会で実験的に提供し、アンケートでお客様の反応を確認



- ・2017年度は「そばの会」のみなさんが炒り方等を工夫
→昨年よりも飲みやすくおいしくなった
- ・そばの会での定期的な提供が実現
- ・お客さんから好評の声が聴かれた

Ⅱ.活動内容と成果

3.後継者不足って本当？実態と課題の可視化

①集落アンケートの実施

21

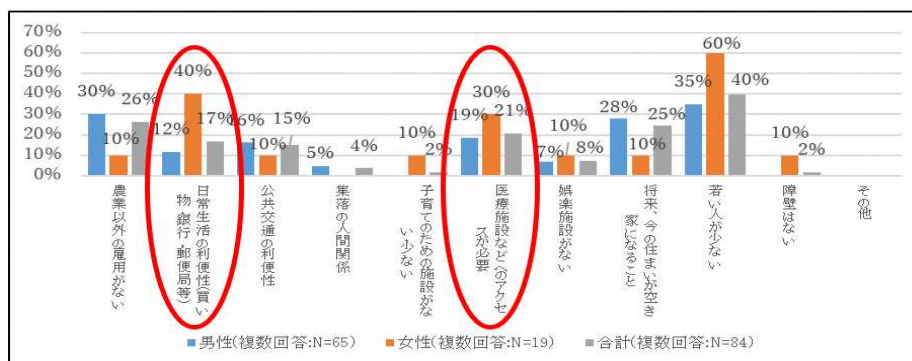
Ⅱ.活動内容と成果

3.後継者不足の解決 ～①集落アンケートの実施～

対象:集落在住の親世代

例)問:「現在羽茂大崎に住んでいて、困っていることはありますか。」

その他の問いは報告書を参照



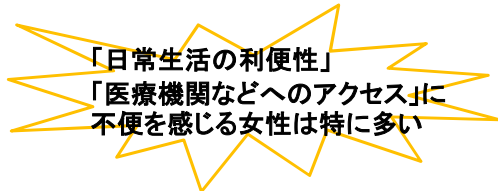
22

Ⅱ.活動内容と成果

3.後継者不足の解決 ～①移動の自由の確保～

①交通インフラの拡充が必要！

集落で使える公共交通手段:1日3本のバスのみ



島外からの観光客(姉齒ゼミも含め)は
レンタカーや自家用車以外の移動が壁

住民だけでなく、観光客も移動に不便を感じている

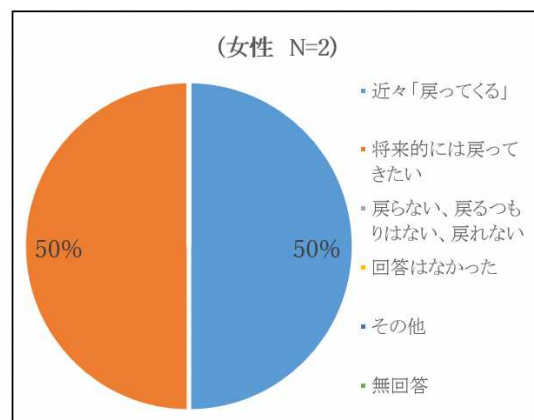
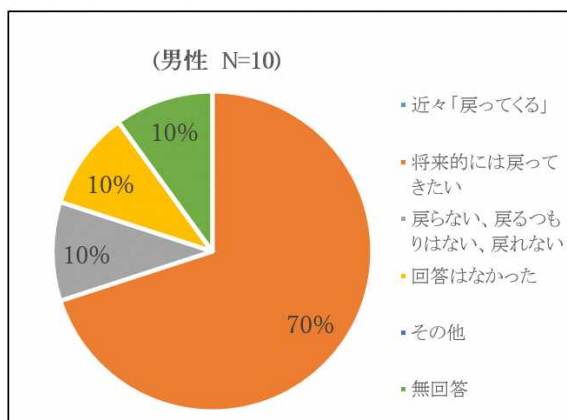
23

Ⅱ.活動内容と成果

3.後継者不足の解決 ～②実は潜在的な後継者は存在していた～

対象:ご家族(お子さん、お孫さんなど)に帰郷のお話をした事がある方

問:ご家族は帰郷することについてどのようにお話しされていましたか。」



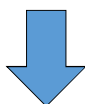
24

Ⅱ.活動内容と成果

3.後継者不足の解決 ～②実は潜在的な後継者は存在していた～

集落に担い手はいないと思っていた...

しかし



帰郷の意思のある子供が9名おり、そのうちの1名が
近々帰郷することが明らかに！

25

Ⅱ.活動内容と成果

4.総括

・マップ、看板の作成

→歩く楽しさを実感＝資源の再発見

・そば殻茶、竹灯籠の実施

→提案が実現、継続につながりそう

・集落アンケートの実施

「え、意外に担い手がいる！」

「交通インフラがあれば・・・」

・・・本当の姿が見えた

26

Ⅲ. 「活動を通して見えた」 自分たちの活動の有効性と限界

27

Ⅲ. 活動を通して見えた学生の有効性と限界

1. 学生が活動に関わることの有効性

1. マップ、竹灯籠、そば殻茶などの各種提案策の実施
→ 集落にある資源の利用可能性の拡大
2. 集落アンケート等の科学的な調査、有効なデータを提示
→ 共同作業の担い手を確認
 - ・ 竹灯籠の準備、集落での会議など→ 後継者問題に新たな切り口を
 - ・ 集落内外に担い手を確認
 - ・ 住民の抱えている不便な点を確認
 - ・ 帰郷に関する障壁を確認

28

Ⅲ. 活動を通して見えた学生の有効性と限界

2. 学生の限界

- ① 持続性の担保ができない
 - ・ 大学生活は4年間
 - ➡ 一定期間後、中心となる学生が卒業
 - ・ 安定的に継続することは困難
- ② 経済的制限
 - ・ 東京⇔佐渡市羽茂大崎＝高額な交通費
 - ・ 島内ではレンタカー利用か教員の運転スキルが必須
- ③ 日常的な関わり方に制限
 - ・ 遠方であることから現地調査の回数に制限

29

Ⅲ. 活動を通して見えた学生の有効性と限界

3. 活動の見直し

現状

現状分析と対処療法の提示にとどまる歯がゆさ

例：アンケート調査や体験によって、交通インフラの整備の必要性を痛感
(病院まで1日仕事、人と触れ合いたいのに家から出られないお年寄り・・・)



日常生活の利便性の確保：インフラの未整備をなんとかしたい。
しかし、学生の力では限界

30

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題

31

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題

1.本事業の有効性 = 集落活性化に果たした役割、学生が得た学び

集落活性化に
果たした役割

自分たち学生が地方の集落の課題に関心を持ち、どうにかしたいと考えさせてくれた。

学生の学び

1.机上の学習と現地調査が「なぜ?」「おかしい」という視点をもたせてくれた。

事前学習：先行研究および集落の膨大な村史＋現地調査＋反省と新提案

2. 学業や課外活動などに事業で得た経験を活かせるようになった

→「教科書のない」活動を通して、主体性が身についてきた。

32

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
2.本事業の今後の課題

- ①生活インフラの改善が必要不可欠
- ②活性化事業の効果測定が必要
- ③持続的な支援システムの構築

33

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
2.本事業の今後の課題

①生活インフラの改善が必要不可欠

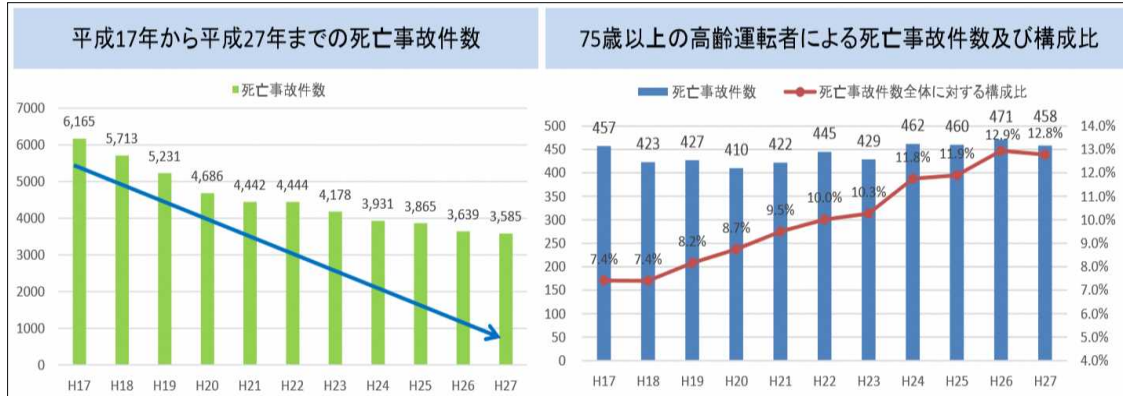
事業では、この基本的な事項への取り組みは想定されていないのではないか？

高齢者にとっての生活インフラ：生活上のリスク軽減(交通事故等)にも有効

34

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
2.本事業の今後の課題

75歳以上の高齢運転者に係る交通事故の現状



出典 警察庁「高齢運転者の運転に係る交通事故の現状」

http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/seizou/supportcar/pdf/001_04_00.pdf (アクセス日2017/1/28)

35

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
2.本事業の今後の課題

②活性化事業の効果測定が必要

- ・活動によって集落でどのような変化が見られたかを調査する
- ・その際、経済的側面だけでは測れない変化、効果等も把握すること



事業で得られたデータを蓄積し、次年度につな
げることが必要である

36

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
2.本事業の今後の課題

③持続的な支援システムの構築

- ・「継続の担い手」不在という壁
例) 成果、ノウハウの共有など
- ・住民との信頼関係には時間が必要：2年は短すぎる



活性化策が一過性のものになってしまう恐れ！

37

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
3.課題解決に向けた提案事項

提案事項

- ①大学の成果を詳細に検証し、提案を実現できるように検討してほしい
- ②事業の継続年数を再考してほしい。
- ③最初から事業の過程を把握し、報告書もきちんと目を通してくれている新潟県・佐渡市の担当者にこそ会場で助言をいただきたい。

38

IV.活動を通して見えた事業の有効性と課題
4.事業終了後における今後の取り組み

今後の取り組み：効果測定と継続的取り組み

- ①アンケート調査の実施
学生の活動は、住民にどのように受け止められたかを検証する
後日新潟県庁に結果がまとまり次第、活動報告を送付する
- ②3回目の現地調査
3月22日～25日
集落アンケートの実施、外用立て看板に関する打ち合わせ
案内板の作成を予定
- ③東京都世田谷区経堂商店会での物産展への出店（4月・11月）

39

ありがとうございました！

40